

平成 24 年度  
環境保全レポート  
(CES 報告書)



平成 25 年 2 月 11 日作成

株式会社 秋東精工

## 目 次

I. 組織の概要	2
II. 環境方針	3
III. 環境保全の対象範囲と対象期間	4
IV. 環境保全組織	4
V. 環境保全の取扱項目と目標	5
VI. 環境保全活動の実績	5
VII. 環境保全活動の内容	7
VIII. 環境保全の取組の評価と次年度の取組目標	9
IX. 代表者による総合評価と見直し	10

## I. 組織の概要

- 【会社名】 株式会社 秋東精工  
【代表者】 柴田 忠利  
【所在地】 〒134-0091  
東京都江戸川区船堀 3-10-22  
TEL : 03-3680-3151 FAX : 03-3686-3761  
HP : <http://www.syuto.jp/>
- 【設立】 昭和 53 年  
【資本金】 1,500 万円  
【従業員数】 19 人  
【事業内容】 プラモデルを中心としたインジェクション金型の設計・製作  
・・・デザインスケッチや写真などの資料をもとに、取材から製品の  
設計、金型の製造および成形物の納品まで  
・・・形の検討から 3D モデリング・試作モデルの作成
- 【経営理念】

Assemble for the Smile !

### お客様の笑顔を大切にす

お客様（取引先）と関係を強化し、満足度を高める  
お客様（消費者）の笑顔のために仕事をする

### ものづくりを楽しむ

誰もできないことをやりたい  
自分たちにしか出来ないものを作ろう  
創造力とチャレンジ精神を培うことができる会社でありたい

## Ⅱ. 環境方針

### 【環境活動方針】

当社は、プラモデルを中心としたインジェクション金型の設計・製作を業務としている。

当社の事業活動及びサービスが環境に与える影響を考慮し、業務を通じた環境保全活動に取り組むため、活動方針、目標を定め、活動状況に応じて見直すとともに、環境マネジメントシステムと活動の継続的な改善及び汚染の防止に努める。

1. 遵守義務が課された環境関連法令、条例、及び当社が同意したその他の法令、協定、取引先申し合わせなどを遵守する。
2. 事業活動にあたり、本来の業務の中での取組みを心掛け、地球環境保全のため、省資源、省エネルギー、再資源化を推進する。
3. 製品やサービスの質を高め、お客様が使用する資源の削減に努める。
4. 消耗品及び備品購入の際、グリーン購入に取り組む。
5. 環境保全の意識を高めるとともに、地域環境保全に取り組む、社会貢献活動を進める。
6. 当社で働く役員を含めた全員に周知し、方針に沿った事業活動を実施する。
7. 環境活動方針や活動レポートを社内外に公表し、社会とのコミュニケーションを大切にする。

平成24年10月15日（月） 制定

株式会社 秋東精工

代表取締役社長 柴田 忠



### Ⅲ. 環境保全の対象範囲と対象期間

#### 1. 環境保全の対象範囲

- 全事業所・全組織

【本社所在地】 〒134-0091

東京都江戸川区船堀 3-10-22

【第二工場所在地】 〒134-0093

東京都江戸川区二之江町 1388

#### 2. 環境保全の対象期間

平成 24 年 10 月 15 日～平成 25 年 1 月 14 日の 3 ヶ月間実施し、環境保全レポートを作成した。

### Ⅳ. 環境保全組織

#### 1. 環境保全体制

【環境保全責任者：EGM】柴田 忠利（代表取締役社長）、柴田 亜希子（総務部）

【アドバイザー】柴田 幹雄（会長）

【環境保全実行責任者：PM】我謝 隆司：S. E. P (syuto ecoist project)

小泉 敬志：eco3 (エコサン)

eco な活動をつづける (continue)

つなぐ (connect)

ふれあう (contact)

エコな人

【環境保全担当者：PP】

S. E. P：田島、中茎、清水(旨)、高橋、鈴木、後藤、岩田、西川

eco3：清水、加藤、村上、磯野、高木、井坂、平井

#### 2. 環境保全対策会議の設置

(1) 全社的な環境問題の対策の検討、保全を推進

月末に、取組んだ環境保全活動を振り返るチェックシートを回収しながら、PM が活動の疑問点や改善点などの声掛けを行っている。必要に応じて責任者で会議を行い、その結果から、活動に対する更なる意見調査のためのアンケートを実施したり、会議での報告を行っている。

(2) 環境保全に必要な教育の実施

10月15日にキックオフミーティングを開催し、以下を社内周知した。

- 環境活動方針の発表
- 環境保全活動運用方法の説明
- 環境保全活動セルフチェックシートの配布
- 廃棄物種類と分別方法の説明
- 環境マネジメントシステムの比較表配布、説明

## V. 環境保全の取組項目と目標

### 1. 環境保全の取組項目

- (1) エネルギー（電力、ガソリン、灯油）の削減
- (2) 廃棄物排出量の削減、分別の徹底、再使用・再利用率の向上、適正処理
- (3) 水使用量の削減
- (4) 化学物質・材料品質管理の徹底（MSDS、ミルシートの発行）
- (5) CSR活動（清掃、ボトルキャップの回収、グリーン購入）の推進

### 2. 取組項目の期間中の目標

環境保全を開始し、3ヶ月の実績を基に、平成25年度より目標を設定する。

## VI. 環境保全の実績 <平成24年10月～12月>

### 1. エネルギー使用量と二酸化炭素排出量への取組

		(A)前年実績値 H23年10～12月		(B)活動期間実績値 H24年10～12月		(A-B)増減量		前年比
		使用量	CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)	使用量	CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)	使用量	CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /kWh)	B/A 増減率 (%)
電気使用量(kWh)		37,964	17,615	48,419	22,466	+10,455	+4,851	127.5
自動車	ガソリン (kL)	1718.7	3,987	1,568.6	3,639	-150.1	-348	91.2
	灯油(kL)	95	236	92	229	-3	-7	96.8
合計		39,777.7	21,838	50,079.6	26,334	+10,301.9	+4,496	120.5
生産量当(kg)			2.97		2.52		-0.45	84.8

※電力の二酸化炭素排出係数は東京電力の平成23年度実排出係数0.464kg-CO<sub>2</sub>/kWhを使用。

※第二工場は平成24年6月に稼働したため、エネルギー使用量、CO<sub>2</sub>排出量及び生産量の前年実績値には含めていない。

## 2. 廃棄物の発生量、再使用量、再資源化量

(単位：kg)

廃棄物等種類		発生量	再使用量	再資源化量	処分量	再資源化率
		(イ)	(ロ)	(ハ)	(イ-ロ-ハ=ニ)	(ロ+ハ/イ×100%)
紙類	OA用紙、封筒等	113.6	0	0	113.6	100
	新聞紙	31.2	3.8	0	27.4	12.1
	雑誌	27.8	0	27.8	0	100
	段ボール	70.5	0	70.5	0	100
可燃ごみ	生ごみ	61.3	0	0	61.3	0.0
不燃ごみ	プラスチック等	408.0	0	408.0	0	0.0
	金属くず等	90.0	0	90.0	0	100
資源ごみ	缶	64.0	0	64.0	0	100
	びん	3.8	0	3.8	0	100
合計		870.1	3.8	664.1	202.3	76.7%

※処分量には産業廃棄物処理業者によるリサイクル量も含む

## 3. 水使用量

(単位：m<sup>3</sup>)

	(A)前年実績値	(B)活動期間実績値	(A-B)増減量	前年比(%)
	H23年10～12月	H24年10～12月		
上水使用量	109	138.5	+29.5	91.8%
生産量当(kg)	0.01	0.01	0	100

※第二工場は平成24年6月完成後稼働したため、前年実績値には含めていない。

## VII. 環境保全活動の内容

### 1. 活動計画

環境活動項目	計画の内容	推進責任者	平成 24 年			
			9 月	10 月	11 月	12 月
普及・啓蒙	環境保全推進ポスターの掲示	柴田（亜）	●			
二酸化炭素排出量の削減	照明の間引き	柴田（亜）		●		
	照明・空調のこまめな消灯	柴田（亜）		●	●	●
	空調の設定温度調整	柴田（亜）		●	●	●
廃棄物排出量の削減	廃棄物の分別徹底	柴田（亜）		●	●	●
	裏紙使用の推進	柴田（亜）		●	●	●
水使用量の削減	トイレや洗面所での節水	柴田（亜）		●	●	●
化学物質・材料品質管理の徹底	MSDS、ミルシートの発行	柴田（亜）	●			
CSR	会社周辺の清掃	小泉・我謝			●	●
	グリーン購入の推進	柴田（亜）		●	●	●
	エコキャップの回収	柴田（亜）				●

### 2. 環境保全へのアンケート実施

#### （1）実施期間

平成 24 年 9 月 24 日～9 月 28 日

#### （2）対象者

全社員（社長・会長含む）20 名

#### （3）結果

アンケート結果の 65%が「積極的に活動を推進していくべき」と回答し、それ以外にも「企業として取り組んだほうがよい」や「そういう時代だから」と、環境保全活動への取組み意識の高さが窺えた。活動に対して寄せられた意見も具体的なものが多く、取り組む意欲を感じた。

### 3. 東京都立産業技術研究センターによる電力使用量、照明照度の測定

### (1) 実施日

平成 24 年 11 月 6 日

### (2) 実施内容

電力、照度及び熱を測定し「見える化」する、東京都立産業技術研究センターの省エネ技術支援を実施した。

### (3) 結果

照度については、測定後 JIS 照度基準と比較を行い、作業机上や廊下等、12 箇所の測定値は全て基準内に収まった。消費電力測定では、2 階コンセント分電盤は照明及び OA 機器の合計が 2.46kW と、マシニング 1 台分の消費電力であることが分かった。

4 階空調機については、待機時 0.05kW、使用時平均 1.07kW、力率は 0.85 となり、概ね良好と評価された。

本結果を踏まえ、コストを掛けずにエネルギーの削減に取り組むことが出来る照明及び OA 機器について、省エネルギー化を引き続き実施していくこととする。

## 4. CSR

### (1) 地域貢献活動

毎週明けの朝、環境保全責任者と数名で会社周辺の清掃活動を行っている。活動によって廃棄物の量が徐々に減少し、一定の効果が見られた。

また、清掃活動中に周辺の企業より声を掛けられるようになり交流が増えてきた。



### (2) グリーン購入の推進

筆記用具（ボールペン・サインペン・蛍光ペン）、レバーファイル、帳簿用バインダー、のりなど、すでに多くの品目においてグリーン購入を実施していた。

新たに、修正テープ、クリヤーブックをグリーン購入に切り替えた。

### (3) エコキャップの回収

活動期間中に 688 個のペットボトルのキャップを集め、エコキャップとして朝日信用金庫に引き取りを依頼した。キャップ 800 個でポリオワクチン 1 人分となる。

## VIII. 環境保全取組の評価と次年度の取組目標

### 1. 環境保全取組の評価

環境活動項目	計画の内容	取組	
		結果・評価	継続取組内容
二酸化炭素排出量の削減	照明の間引き	○	—
	照明・空調のこまめな消灯	○	○
	空調の設定温度調整	○	○
廃棄物排出量の削減	廃棄物の分別徹底	○	○
	裏紙使用の推進	△	○
水使用量の削減	トイレや洗面所での節水	○	○
化学物質・材料品質管理の徹底	MSDS、ミルシートの発行	○	○
CSR	会社周辺の清掃	○	○
	グリーン購入の推進	○	○
	エコキャップの回収	○	○

### 2. 次年度の取組目標

平成 24 年 10 月～12 月度の活動と平成 23 年 10 月～12 月度の活動実績値を比較し、平成 25 年度の目標を策定した。

尚、エネルギー及び水については、平成 23 年度は第二工場が稼働していなかったため、平成 24 年度より第二工場稼働分の使用量が含まれていることを考慮しながら次年度の目標を策定する。

廃棄物については、平成 23 年の実績値がないため、平成 24 年の 3 ヶ月間の活動実績値を基に目標を策定するものとする。

環境活動項目	単位	平成 24 年 10 月～12 月実績	平成 25 年度目標 (実績より 1%削減)
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub> /t	10,414.2	9,372.7
廃棄物排出量	kg	870.1	861.3
水使用量	m <sup>3</sup> /t	138.5	124.6

※単位の kg は、生産重量を示す。

## IX. 代表者による総合評価と見通し

1. コンパクトエコシステムの導入により、社員全体の環境への意識や、PM に任命された社員のリーダーシップの発揮など、一部では社員の士気の向上が見られた。

2. 特に廃棄物排出量削減の取組みについては、「缶コーヒーはリサイクルされているのに何故廃棄物として削減する必要がるのか」という疑問が挙がり、LCA の視点から缶コーヒーと自らコーヒーを入れる場合の CO<sub>2</sub> 排出量について京都大学のマイボトル・モニター実験の試験報告書を基に考察した。結果、使い捨てのものは環境負荷が高いということを全社員理解し、一部では缶コーヒーから自分でお湯を注ぐスティック状のコーヒーへと切り替え、取組めるところから取組むこととした。

3. 環境保全活動について疑問が出た場合、その疑問を払拭し、且つ、さらに保全活動を進めていくにはどうしたら良いかアンケート調査なども行っている。これは、活動を推進していく PM リーダーの働き掛けを高く評価したい。

4. エネルギー使用量について、第二工場は平成 24 年 6 月に建設され稼働したため、エネルギー使用量、CO<sub>2</sub> 排出量及び生産量の前年実績値には含めていないが、平成 24 年度の生産量当り CO<sub>2</sub> 排出量は減少となった。

5. 平成 25 年度は、この 3 ヶ月間の成果を基に、各目標値を達成できるよう更なる二酸化炭素、廃棄物、水の削減に取り組む。CSR 活動については、会社周辺の清掃活動実施者を増やすことを予定している。



---

本レポートについてのご意見・お問い合わせ先

株式会社 秋東精工

総務部 環境保全責任者 柴田 亜希子

〒134-0091 東京都江戸川区船堀 3-10-22

TEL : 03-3680-3151 FAX : 03-3686-3761 HP : <http://www.syuto.jp/>